３－９．史跡の現状と課題（各遺跡ごと）

各遺跡の現状と課題を以下に示す。

（１）半高山・吉次峠古戦場

１）現状

半高山・吉次峠古戦場は、田原坂、横平山古戦場の南側に位置し、熊本城と玉名高瀬を結ぶ吉次往還が通る要衝の地である。保存活用計画（平成 28(2016)年）に基づき、多目的広場及び山頂部までの園路は一部整備実施済みである。

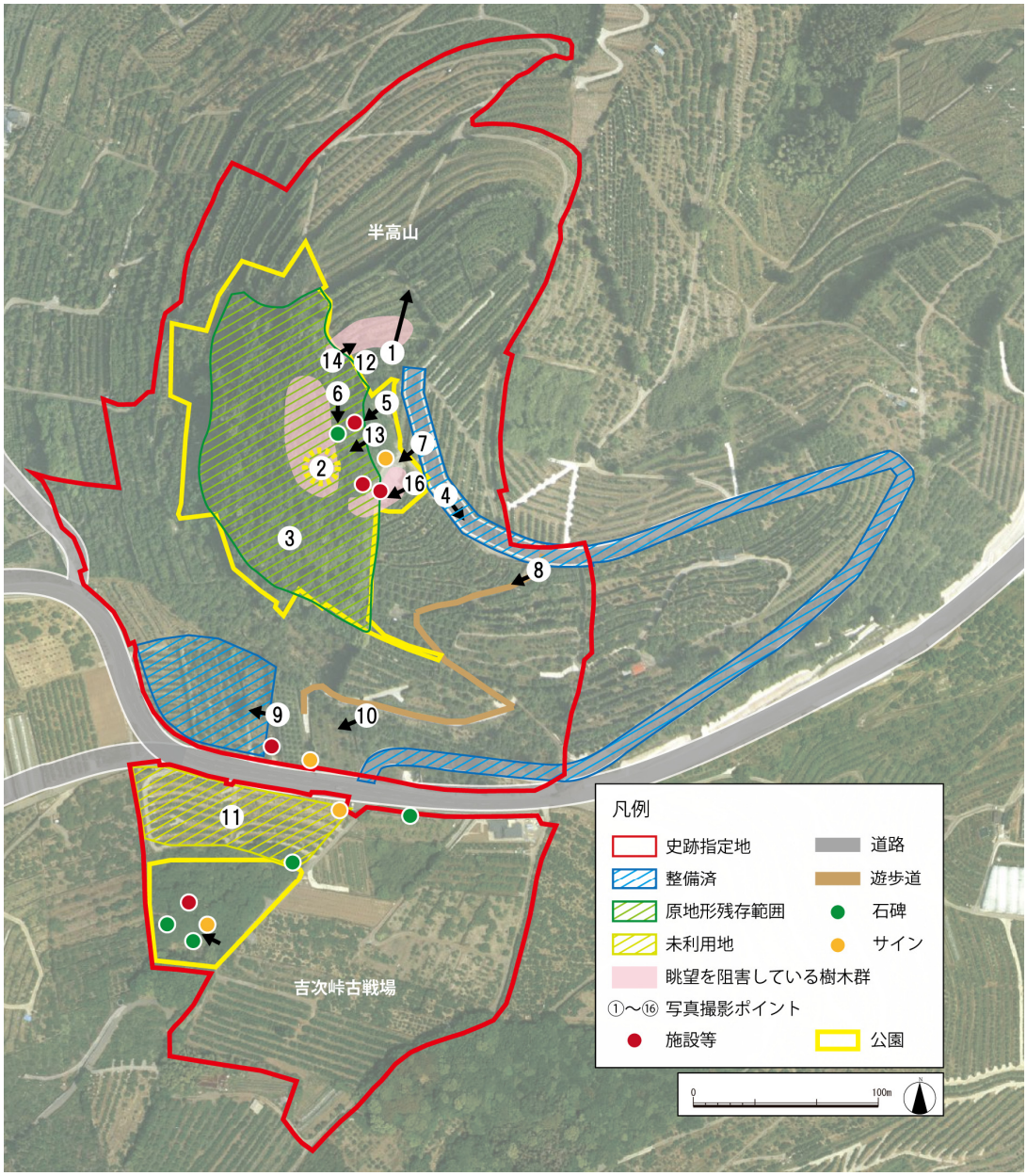

図 53．半高山・吉次峠古戦場現況平面図

２）構成要素等の保存状況

①半高山山頂部分

〈史跡に関わる価値と現状〉

・当該地は、現在も周辺一帯の戦場等となった地形（南側の三ノ岳を除く）を見渡すことができる場所である。当時、両軍とも戦闘を有利に進めるために高地に陣地を築いており、半高山山頂部もそうした理由から陣地が築かれた。現在においても当時の眺望が残されている場所である。

・胸壁として利用されていた巨岩が露出しており、多種の薬莢が発見された場所が当時のまま残されている。

・観光案内板が設置されている（熊本県設置）。

〈史跡の本質的価値以外の価値〉

・平成 6(1994)年以前に設置された展望台（RC 造地上 1 階建て）からは西側の有明海の景観を望むことができる。

・現在も地域から信仰されている山の神（鳥居とご神体の岩）がある。

②半高山西側斜面

〈史跡に関わる価値と現状〉

・小銃弾や砲弾破片等が発掘調査で確認され、原地形がそのまま残っている。

・現在は雑木林となっており、樹木が繁茂し進入は困難である。

③多目的広場

〈史跡に関わる価値と現状〉

・観光案内板が設置されている（熊本県設置）。

〈史跡の本質的価値以外の価値〉

・多目的広場、トイレ（木造 38.71 ㎡）、四阿（木造）、駐車スペース（乗用車 12 台、中型バス 1 台）が整備されている（平成 27(2015)年度から令和 3(2021)年度）。

④吉次公園

〈史跡に関わる価値と現状〉

・小銃弾等が出土した原地形が残る。

・吉次公園には後世の記念碑が設置されている。

・観光案内板が設置されている（熊本県設置）。

〈史跡の本質的価値以外の価値〉

・吉次公園へのアクセス階段、水道設備が整備されている。

・トイレが整備されているが、老朽化のため現在使用できない。令和 4 (2022)年度撤去予定。

⑤ミカン園

・戦後に形成されたミカン園は、町の主要産業となっている。

①．半高山山頂から田原坂を望む

②．薬莢集中区

③．原地形が残り、埋蔵物が良好に保存していることが調査により明らかにされた範囲＝写真右側

④．半高山山頂アプローチ（整備済み）

⑤．半高山山頂展望台

⑥．山の神

⑦．山頂部多目的スペース

⑧．遊歩道（現在通行止め）

⑨．多目的広場（整備済み）

⑩．多目的広場（整備済み）

⑪．吉次峠側果樹園跡

⑫．半高山山頂展望台周辺

⑬．半高山山頂西側の眺望を阻害する樹木

⑭．半高山山頂北側の平場

⑮．吉次公園広場

⑯．半高山山頂既存山頂トイレ

３）公開活用の現状

・現在、来訪者は県道 31 号（熊本田原坂線）よりアクセスしている。国道 208 号より町内を通りアクセスするルートもあるが、わかりにくいため利用者は少ない。
・本史跡の来訪者は観光案内板や景観を観覧している。最近では、親子連れの多目的広場の利用も多く、ディキャンプに利用している個人も見受けられる。
・多目的広場に併設されたトイレは、史跡来訪者以外の利用が多くみられる。
・簡易解説板（玉東町教育委員会設置）からスマートフォン等で QR コードを読み取り音声案内を聞くことができる。
・Web 上に掲載された西南戦争マンガの続編にアクセスできる QR コードが設置されている。

４）整備の現状

・多目的広場は、平成 20(2008)年に開始した特定地区公園（カントリーパーク）整備事業の一環として整備を行った。
・多目的広場やトイレ、四阿（休憩所）が令和 3 (2021)年度完成した。

５）課題

①眺望の確保

・山頂部に西南戦争後に植栽された桜等の樹木が繁茂し眺望を塞いでいるため、伐採、剪定が必要となる。

②施設

・展望台（⑤）は、周辺の桜等の樹木により周囲を展望する機能を欠いている。四阿（休憩所）としての利用は多い。
・山頂トイレ（⑯）は旧式で不便であり、中が暗く防犯上でも危険がある。利用者が見込まれるため改修する必要がある。
・ベンチ等の便益施設は木製で雨上がりは使いにくく一部破損しているため、利用に堪えない。

③遺構・遺物の保存

・半高山山頂部及び西側斜面地においては、発掘調査によって遺構や遺物、巨石を利用した陣地遺構が残存していることが確認されているが、当時の状況をイメージできるものがなく、来訪者に史跡の価値を伝えることができていない。

④吉次峠側の果樹園跡地

・数年前までは吉次峠斜面にはミカンが栽培されていたが、現状は伐採され活用されていない（⑪）ため、今後の活用について検討する必要がある。

⑤アクセス

・半高山・吉次峠古戦場に来訪するための車輌誘導・名称サイン等が無く、遺跡の存在を伝えられていないため、サイン等の設置を検討する必要がある。

⑥その他

・吉次往還（指定地外）は、当時と景観が変化し現在は広域農道が通る。当時の状況がイメージできないため、解説板等の設置を検討する必要がある。

（２）横平山古戦場

１）現状

横平山古戦場は、田原坂と半高山・吉次峠古戦場の間に位置し、政府軍が本営出張所や砲台を置いた二俣台地の南部に位置する。山頂部は調査において塹壕跡が確認されている。

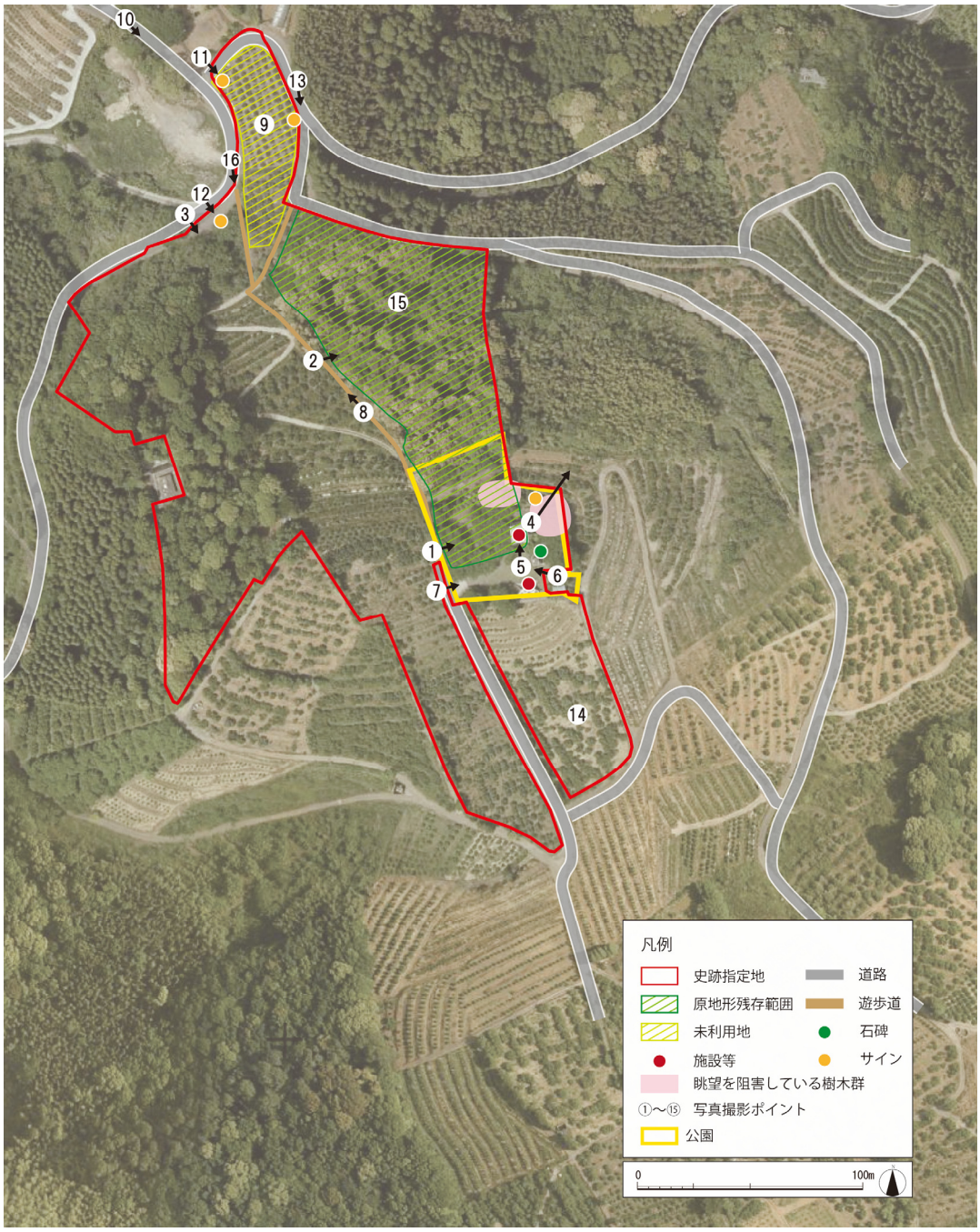

図 54. 横平山古戦場現況平面図

①．塹壕跡

②．薩軍仮埋葬地

③．兵站湧水地

④．展望台から田原坂を望む

⑤．展望台

⑥．山頂広場

⑦．多目的スペース

⑧．遊歩道

⑨．未利用地（横平山北側麓）

⑩．道路開発予定地

⑪．誘導サイン
（左歩行者用、右車両用）

⑫．解説サイン（横平山北側麓）

⑬．山頂への車両入口

⑭．山頂から南側を望む

⑮．原地形が残り、埋蔵物が良好に保存
していることが調査により明らかに
された範囲（山の北斜面）

⑯．遊歩道につながる歩道

２）価値の分布と保存の状況

・当該地は、要地「田原坂」の左翼にあたる微高地（144m）であり、さらに左翼に要地「半高山」、金峰山三ノ岳が連なる。当時は山頂部分から田原坂や半高山を視認できたために、当該地に西郷軍の陣地が築かれた。現在は樹木が繁茂し当時の状況とは眺望が変化している。３階建て展望台からは田原坂方向（北東）及び植木（東）、半高山を視認することが可能である。

・横平山山頂部には当時の塹壕が一部残存している（①）。塹壕底面には土砂が堆積している。現在は昭和 17(1942)年製石碑が建てられているのみで具体的な説明板はないため、遺構であることが分かりにくい。

・横平山北側斜面は調査で明らかになった戦闘の痕跡（小銃弾の散布等）が確認されたが、顕在化できていない。

・上記山腹途中に、「薩軍仮埋葬地」（②）がある。現在は、後世に建てられた碑があるのみである。

・山麓の兵站湧水地（③）は、戦闘の後に死に水を求めた兵士の遺体が重なっていたと伝わるところである。後世現在の形に整備された。現在は水量が少なく、落ち葉が堆積している状況である。

３）公開活用の現状

・来訪者は個人や数人のグループ単位が主で、田原坂駅、木葉駅から主に車両によりアクセスし、展望台から周辺の地形を観覧している状況である。また、近年ではフットパスコースとして麓から山頂へ登る遊歩道の利用が増加している。また、桜の花見目的の来訪者が多い。

・山頂までは遊歩道が整備されているが、利用者の多くは車で山頂までアクセスする傾向にある。

・簡易解説板（玉東町教育委員会設置）からスマートフォン等で QR コードを読み取り音声案内を聞くことができる。

４）整備の状況

・平成 7(1995)年設置の展望台は、一部コンクリートが剥離している状態である。

・平成 7(1995)年設置の屋外トイレ(RC 造 22.04 ㎡)は汲み取り式であったが、令和 2 (2020)年の改修により合併浄化槽を導入した。

５）課題

①遺構・遺物の保存

・横平山では、北側斜面及び山頂部において遺構や遺物が確認されているが、当時の状況をイメージさせるものがなく、来訪者に史跡の価値を伝えることができていないので、サインや解説版の設置を検討する。

②解説・案内

・横平山全体や山頂部の塹壕跡の解説が示されておらず、来訪者に史跡の価値を伝えることができていないので、サインや解説版の設置を検討する。

③眺望の確保

・横平山は、田原坂や二俣官軍砲台を見渡すことができる立地である。現在、雑木や西南戦争後植樹された桜等により眺望が塞がれているため、剪定や伐採を行う必要がある。

④植栽管理

・山頂広場に植生している樹木は密接しており、上部で枝が絡み合っているものもある。これらは歩行者に危害を及ぼす恐れがあるので剪定や伐採を行う必要がある。

⑤アクセス

・車両で山頂へアクセスするには道幅が狭く、案内表示が少ない。また、車両を駐車できるスペースが山頂部分（４、５台程度）のみである。

・遊歩道は木々が繁茂し薄暗いため剪定や伐採を行う必要がある。

・車両やフットパスの案内はされているが、自転車等の二次交通については整備されていないため、交通手段に応じたアクセス方法を整理し、整備について検討する必要がある。

⑥未利用地の活用

・横平山北側山麓は、近年までミカン畑として利用されていた土地であり、今後積極的に整備を進めていく。しかし、未調査地であるため調査を行いながら整備を進める必要がある。

⑦施設

・展望台やトイレ等は景観等に配慮して造られたものではなく、景観を阻害しているため、将来的な移転も含めた改修検討が必要である。

・展望台は、現在周辺の地形を見るために必要な施設であるが、周辺の支障木伐採後には撤去も含めた検討が必要である。しかし、他地点から当該地を視認するための構築物としては有用であるとも考えられるため、視認しやすい色調に屋根の色を変更する等の改修も含めて検討する必要がある。

・山頂広場のトイレは令和２(2020)年まで地元老人会が清掃活動をしていたが、現在は老人会解散により町が清掃管理を行っている。

（3）二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡

1）現状

二俣瓜生田官軍砲台跡は、轍跡等の遺構が調査により確認されている。しかし、解説板等が少なく視認性が低い。また、誘導・名称サイン、駐車場等が無く、遺跡の存在を伝えられていない。

眺望面では、田原坂方面への眺望を樹木林が一部阻害している等の課題がある。

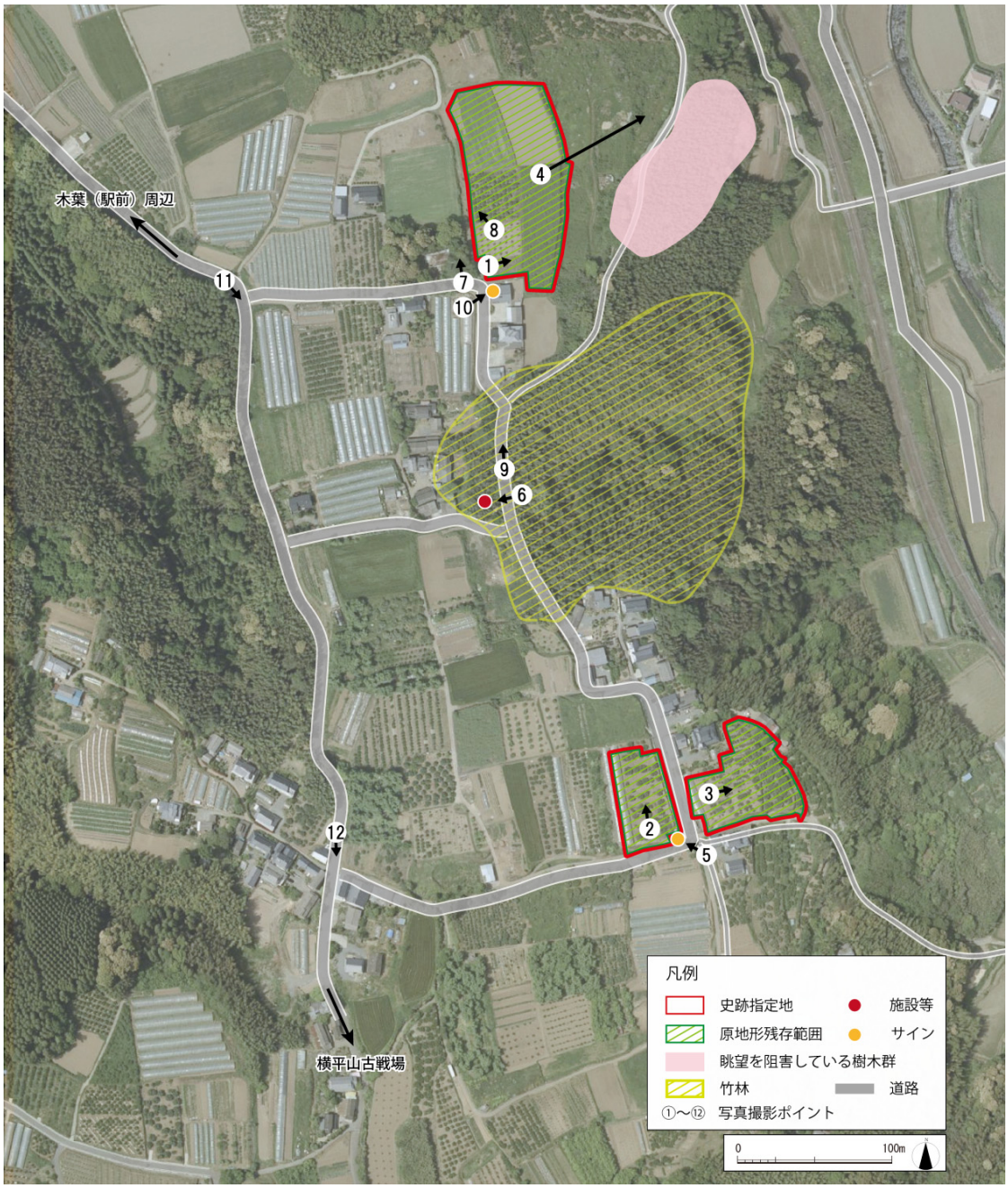

図 55. 二俣瓜生田官軍砲台跡・二俣古閑官軍砲台跡現況平面図

①．二俣瓜生田官軍砲台跡

②．二俣古閑官軍砲台跡上段（現在平地）

③．二俣古閑官軍砲台跡下段
（現在ミカン畑）

④．瓜生田官軍砲台跡から田原坂を望む

⑤．仮設解説板（二俣古閑官軍砲台跡）

⑥．本営出張所跡

⑦．駐車場予定地

⑧．中世期の溝

⑨．両砲台をつなぐ道

⑩．観光案内板（二俣瓜生田官軍砲台跡）

⑪．木葉方面からの砲台跡への進入路

⑫．横平山古戦場から砲台跡への進入路

2）価値の分布と保存の状況

・野戦砲台（台場）として使われていた平場の地形は、両地区ミカン畑（③）として利用されていた経緯はあるが、遺物の散布状況や古写真から推測して当時のままの地形が残存していると推測される。

・瓜生田地区では野戦砲台の遺構が発掘調査により確認されており、埋め戻しにより保存されている（①）。

3）公開活用の現状

・個人や数人のグループ単位での来訪者が多い。

・田原坂駅、木葉駅から主に車両によりアクセスする来訪者が多い。

・近年ではフットパスコースを歩く利用が増加している。

・田原坂資料館が東側約 1 km 地点にあり視界を遮るものがないため、当時の戦闘の距離感を体感できるスポットである。

・簡易解説板（玉東町教育委員会設置）からスマートフォン等で QR コードを読み取り音声案内を聞くことができる。

・Web 上に掲載された西南戦争マンガの続編にアクセスできる QR コードが設置されている。